

きとばし、庭木を吹き倒し、稲を押し伏せ
ます。私も納屋を倒されて困ったことがあ
ります。

大雨がふれば溪流はたちまち濁流の渦と
化し、葦や笹を押しふせ、時によっては田
圃のあぜさへ漕って行きます。

そのような天変地異の時でさえも自然は
対話の相手になってくれます。

むかしの聖賢はこんな自然の猛々しいこ
とばの中から、天啓のささやきを受けとめ
たものと思われます。
テレビやマスコミは人間を自然との対話

出 発

馬 場 力

△中学校教諭・技術▽

野に遠く街の灯揺るる夕暮れを地にしたたるか月赤あかと
青雲の思いに遠きちちははの愛を憎めど月近く照る

つねにわれの胸底にそよぐ旗青しもりあがりくる海のなかの島國

人混みのなかに去りがたくいる夕べ冷ややかな視線をひとつ待ちつつ

わが影は確かにわれのものとして店頭の青き灯を過ぎりたり

黄の花をかざしてわれの見たるもの父の極のいまも野を行く

夜の広き遠景のなかへ銃V持ちてわが行くあとを追う母を見き

抱き合うふたつの影にそよぎたる樹林よ天を指すには低し

夕映えを仰ぐロゴスよ影長く曳きて愛など語るすべなく

よらいたるもののかたちよみみずみすと葉の光る径のわれとわが影

背後よりわれをののしる者の声とあるときは街の雑踏のなか

放たれしけもののがいただよわせ改札口よりわれの出発

から押しのけようとして映像を送りこんで
来ています。道がよくなって、自動車の排
気ガスもただようようになりましたが、そ
れでも私は自然との対話の中に生きつつけ
て行くでしょう。

山の中の暮しでは、自然のほかに対話の
相手がありません。

自然はいつでも、問に答えてくれます。
人間のように意地悪くそっぽを向いたり、
心にもない嘘をついたり、ごまかしたりす
ることがありません。

自然は、友だちであり、教師であり、恋
人であり、人間のすべてです。

この原稿を書いている時、硝子戸の外で
はもう驚とほととぎすが妙なる朝の合唱を
楽しんでるのです。

(大9大英卒・岡山女子短大教授)

あ の と き

林 彰

二十余年前の夏のことだった。奥地の作